

参加グループ及び出演者プロフィール

■スダマニ／Cudamani (インドネシア・バリ島)

神々と芸能の島・バリ島屈指のガムラン・オーケストラ&ダンス・カンパニー

スダマニはバリの村をベースとした活動を行なっているガムラン・オーケストラ&ダンス・カンパニー。1997年にバリのプゴセカン村で創設され、以来、伝統の保護と新しい作品の発展に寄与してきた。伝統に対する真摯な姿勢に加え、バリでトップを争う技術と音楽性、そして統制されたリーダーシップを備えたスダマニは、バリ芸能の次の時代を担う若手の音楽家集団として数多くあるこの種のカンパニーの中では、主導的な位置を占めている。創作・演奏活動のほか、伝統文化の維持を目的に、プゴセカン村の若者を対象とした無料のガムラン及び舞踊クラスを実施している。

国際的にも活躍しており、アメリカ（2002年）、ギリシア（2003年）、イタリア（2002年）へもツアーを行った。

芸術監督：デワ・プトゥ・ブラタ、デワ・クトゥット・アリット。



■琉球國祭り太鼓／Ryukyukoku Matsuri Daiko (日本・沖縄県)

沖縄を代表し、世界的な人気を誇る「エイサー」太鼓集団

沖縄のエイサーをベースに、空手の型を取り入れた独自の振り付けとダイナミックなバチさばきで、今や沖縄を代表し世界的に人気を誇る太鼓集団。昭和57年に沖縄市泡瀬の若者達を中心に結成されて以来、沖縄が大切にしてきた「迎恩」の心を打ち響かせてきた。現在、沖縄県内の11支部の他、県外13支部、更には海外7支部に、総勢約1500名の会員をもち、世界規模に広がりを見せている。

活動も沖縄県内に留まらず、東京・国立劇場やニューヨーク・カーネギーホールといった大舞台や、ヨーロッパ、オーストラリア、シンガポール、インドネシア、中国、台湾等でも遠征公演を展開。98年2月には「長野オリンピック文化芸術祭」に、また同年8月にはアルゼンチンにて開催された「沖縄県人南米移住90周年記念祭」にも参加するなど、沖縄の文化を世界に紹介するため、会員一同新たな感動の創出に取り組んでいる。



■宇和島市役所牛鬼保存会・丸穂牛鬼保存会

／Ushioni-preservation committee (日本・愛媛県)

巨大な怪獣「牛鬼」が巡幸する四国の奇祭

牛鬼とは、牛と鬼をミックスした鬼面に、4mに及ぶ長い首、さらに巨大な胴体に剣をかたどった尻尾をもつ怪獣である。長さ5~6m、幅3mの胴体は、青竹を編んで作られ、その上を「しゅろ」の毛もしくは赤布で覆い、数十人の人が中に入って練り歩く。起源は、文禄の役のおり、加藤清正が敵を威圧するために作ったという説と、戸田勝隆の家臣大洲太郎が、赤布を用い、牛鬼の形を作って猛獣の来襲を防いだのが始まりとする説があるが、定かではない。宇和島地方では、悪魔祓い・家内安全・商売繁盛の祭神として秋祭りの花形となっている。



■ナビゲーター:小谷野哲郎/KOYANO TETSURO (バリ仮面舞踊家)

日本初のプロのバリ舞踊家として、仮面舞踊を中心に伝統の技術に裏付けされながらも現代的な自由で幅広い活動を展開。日本人としての感性と方法論によってバリ芸能を読み解いた新しいスタイルのトペン(仮面舞踊)劇などの創造に努める。

